

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年9月7日(2017.9.7)

【公表番号】特表2016-514574(P2016-514574A)

【公表日】平成28年5月23日(2016.5.23)

【年通号数】公開・登録公報2016-031

【出願番号】特願2016-506716(P2016-506716)

【国際特許分類】

A 47B 88/453 (2017.01)

A 47B 88/40 (2017.01)

【F I】

A 47B 88/00 H

A 47B 88/04 E

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年7月20日(2017.7.20)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

その目的は、請求項1の特徴を備えた駆動装置によって達成される。その特徴によれば、結合装置は、取り出し(ejection)装置(エJECT装置)による可動家具部品の取り出しによって結合位置に存在し、結合装置は引っ張ることで開いたとき、取り出し装置に対して非拘束的に可動である。従って、結合装置は、引っ張って開いたとき少なくとも部分的に結合位置に留まり、結合装置は超過荷重バネのバネ荷重から自由に動くことができる。加えて、家具部品が押し込まれたとき、結合装置の構成要素が簡単に再び結合できるので、再び閉じたときにロック解除を実行する必要はない。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

取り出し装置に対する結合装置の“非拘束的な”移動とは、言い換えるならば、引っ張って開くと、結合装置が取り出し装置とは独立して移動可能であることを指す。さらに言い換えれば、結合装置は引っ張って開いたとき、取り出し装置に接続されていない。この場合、結合装置は駆動装置に対して並進構成要素(translatory component)と共に移動可能であり、そこでは、例えば、結合装置はガイド通路の直線部分においてバネ荷重なしで移動可能である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

特に好適には、非拘束的な移動のために、結合装置は伝達当接部 ( transmission abutment ) を有しており、結合装置は、それによって閉じ位置および閉じ位置と超過押圧 ( over-pressing ) 位置との間の超過押圧領域で取り出し装置の始動当接部 ( triggering abutment ) に当接し、引っ張って開くと、伝達当接部は始動当接部から持ち上げられて離れ、伝達当接部と始動当接部との間には接触が存在しなくなる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

もし、可動家具部品 3 がロック解除されずに、図 5 で示すように超過押圧によって取り出され、開きは可動家具部品 3 を引っ張ることで実行されるなら、駆動装置 1 は図 9 で示すごとく開き位置 OS に移動する。その位置では、取り出し装置 4 はロック位置 V に留まる。引っ張って開くことにより、基礎プレート 8 は開き方向 OR に、家具筐体に対して固定されている結合帯同部分 16 に対して移動する。結合装置 5 が捕捉要素 15 と結合スライダー 14 とにより結合帯同部分 16 に結合され、結合位置 K に存在すると、始動当接部 7 は伝達当接部 6 から持ち上げられて離れ、引っ張って開くと、結合装置 5 は取り出し装置 4 に対して非拘束的に移動する。一方でバネ基部 45 は、基礎プレート 8 と共に基礎プレート部材 42 によって開き方向 OR に移動するが、他方で引き込み力保存手段 21 は、バネ基部 46 と引き込み捕捉要素 20 とによって捕捉要素 15 に提供されている引き込み帯同部分 22 に結合されているので、引き込み力保存手段 21 も第 1 の開き移動部分 W に沿って、その開き移動により応力を受ける。引き込みガイド通路 41 の曲状端部 47 に到達するとすぐに、引き込み捕捉要素 20 は旋回し、図 9 に示すように、引き込み捕捉要素 20 は引き込み帯同部分 22 から外される。しかしながら、同時に、結合装置 5 は結合帯同部分 16 と共に結合位置 K に留まる。図 9 に示すように、その位置で、引き込み力保存手段 21 は再び応力を受ける。